

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	茨城県
-------	-----

学校の概要(平成15年度4月現在)

学校名	笠間市立佐城小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	2	1	8	14
児童数	35	33	34	39	35	46	1	223	

研究の概要

1 研究主題

<p>「確かな学力」を育むための指導法の研究</p> <p>- 個に応じた授業づくりの研究(算数科を通して) -</p>

2 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

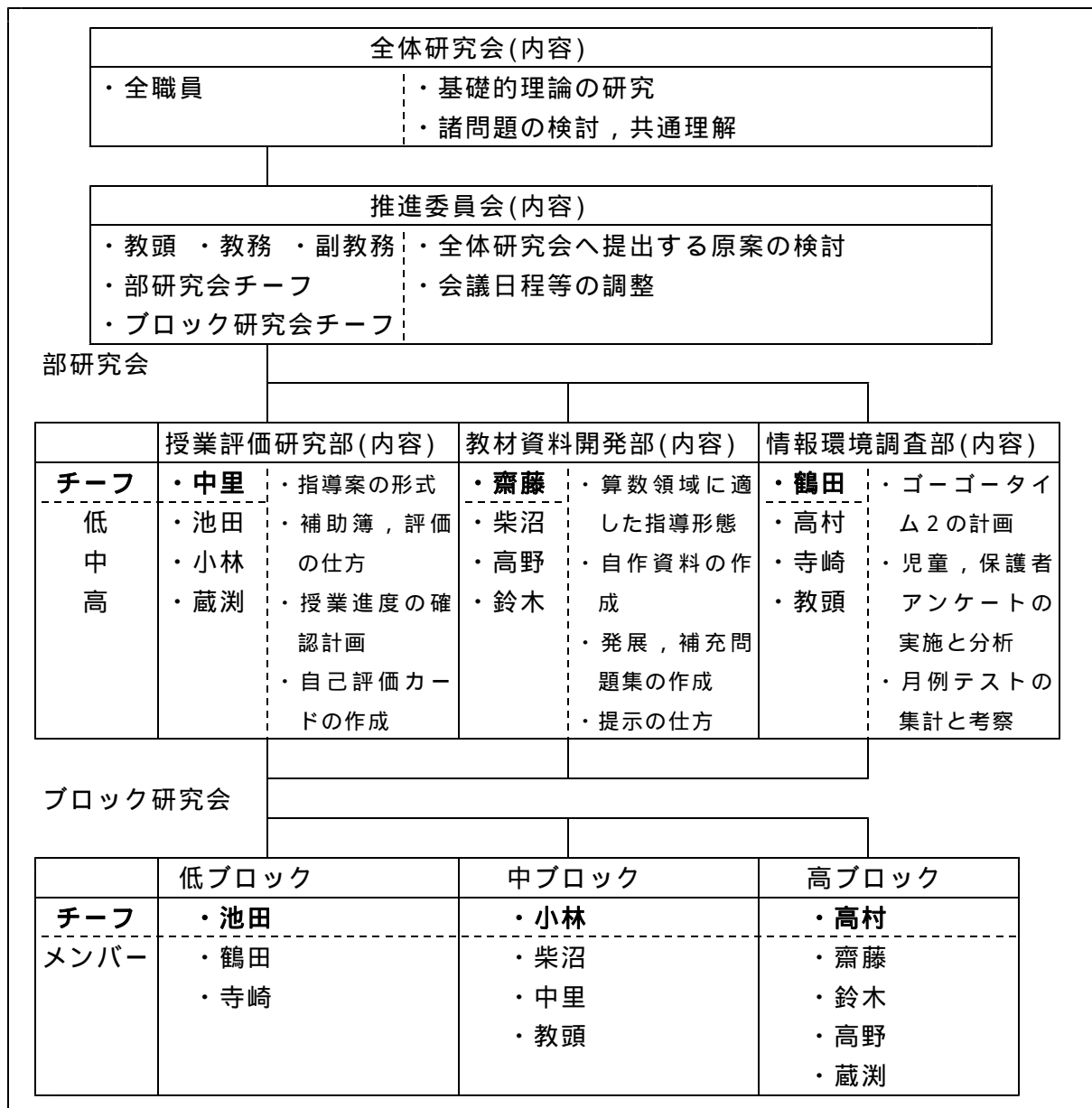
<p>全学年・算数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理解の状況に差が出やすい教科であるため。 ・実態調査で、算数の「数学的な考え方」が劣っていたため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ</p> <p>「確かな学力」を育むための指導法の研究</p> <p>研究の見通し</p> <p>少人数指導, 習熟度別コース選択学習, 教科担任制, 教科外活動を実施し, 個に応じた学習教材と支援方法の研究を進める。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>学力のとらえ方と教材の工夫, 及び個に応じた指導</p> <p>(問題解決学習, 教科担任制の導入, 少人数指導, 習熟度別コース選択学習)</p>
--------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>「確かな学力」を育むための指導法の研究</p> <p>研究の見通し</p> <p>習熟度別コース選択学習, 教科担任制, 教科外活動を継続し, 評価を生かした指導方法の研究を進める。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>個に応じた指導方法・評価を生かした指導</p> <p>(習熟度別コース選択学習, 評価方法)</p>
--------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(3) 研究推進体制



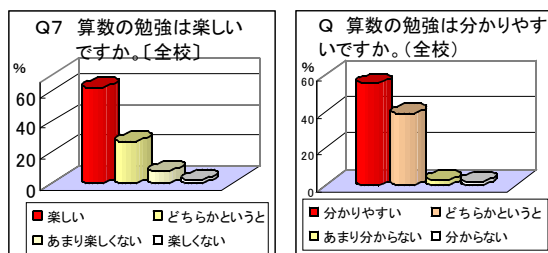
平成15年度の研究成果及び今後の課題

1 研究成果

(1) 児童

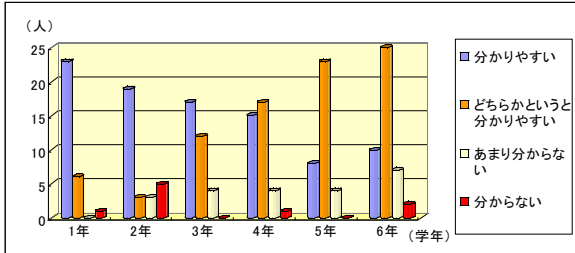
- ・2月のアンケート結果から「算数の勉強は楽しいですか」という問いに，全校で89%が「楽しい」「どちらかという楽しい」と答えている。また，算数の勉強については，95%が「分かりやすい」「どちらかという分かりやすい」と答えている。

全学年 【平成16年2月】

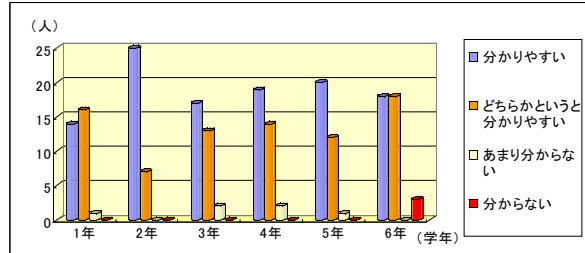


- ・学年別では，6月の結果と比較すると，4・5・6年で「分かりやすい」が増え，「あまり分からない」「分からない」が減った。

全学年 【平成15年 6月】

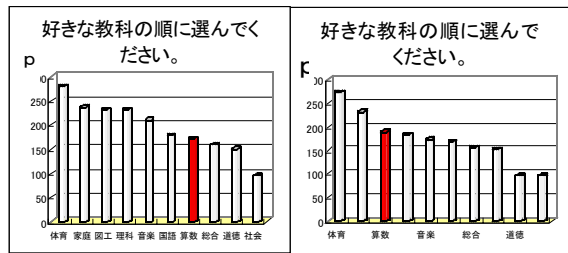


全学年 【平成16年 2月】

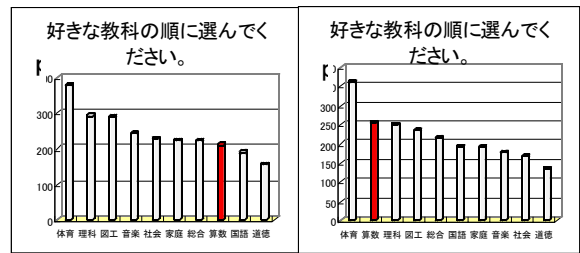


- ・好きな教科を聞いたところ、5年生では、6月の調査と比べ176から189ポイントへ、6年生では211ポイントから257ポイント上がった。理由の一番多かったものは、「コース別で自分にあった勉強ができるから、前よりも楽しい」というものだった。

5年生 【平成15年 6月】 【平成16年 2月】



6年生 【平成15年 6月】 【平成16年 2月】

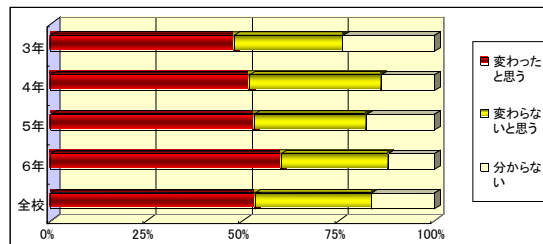


- ・その他にも、「テストをやりたいと言う児童が増えた。」「話を集中して聞けるようになった。」「自分の言葉でまとめが書けるようになった。」「振り返りカードに『楽しかった』『がんばりたい』と書く児童が増えた。」などの変容も見られた。

(2) 保護者

- ・「お子さんの学習に対する取り組みは変わったと思いますか」という問いに、「変わった」54.1%、「変わらない」29.2%、「分からない」16.7%と答えている。学年別では、学年が上がるほど「変わった」と答える割合が増えている。
- ・その主な理由は、「宿題でわからないところを聞いてくる回数が減った。」「計算間違いがなくなり早くなった。」「宿題のほかにも進んで学習をするようになった。」「苦手意識がなくなり、子どもが『算数に対して自信がついた』と言っている。」などである。

【保護者のアンケート結果】



(3) 教師

- ・進度や指導方法などを話す機会が増え、クラスを越えた情報交換が密になった。
- ・教材研究や資料の準備に時間をかけるようになった。
- ・指導法を学ぶ研修意欲が高まり、
- ・40回を超える研修を実施して、教師の資質の向上が図られた。

2 今後の課題

- (1) コース別といってもその中でも個人差はある。さらなる個に応じた指導法を、他教科にも広げ研究していく。
- (2) 指導と評価の一体化を実現していくため、さらに研究を進めていく。

学力等把握のための学校としての取組

・学力テストの実施	実態把握，指導・手だてのための資料
・C D Tテストの実施	実態把握，指導・手だてのための資料
・アンケート調査（児童・保護者）の実施	比較，指導のための資料
・月例テストの実施	理解定着のための資料
・プレテスト，レディネステストの実施	コース選択資料
・定着テストの実施	指導の不足を測るための資料
・単元後のテストの実施	理解度を測るための資料
・学習カードの実施	比較，指導のための資料

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

・フロンティア便り「フェニックス」の発行
・HPでの公開
・研究会の呼びかけ
・他校研究会への参加
・市研究発表会（h16,2,17）での研究発表

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下 13～18学級 25学級以上	7～12学級 19～24学級		
【指導体制】	少人数指導 一部教科担任制	T・Tによる指導 その他		
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	算数 図画工作	理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	有	無		